

取組の概要【 1 ページ以内】

神戸学院大学では、平成22年4月から、キャリア教育および支援を更に拡充するために、従来は学生支援センターの下部組織として位置づけていた進路支援グループを、キャリアセンターとして分離・独立させ、全学的なキャリア教育・支援体制の構築とその推進を図る体制を整えた。そうしたなかで、第1ステップとして、現状では各学部独自に実施しているキャリア教育をキャリアセンターに一元化するとともに、それらをキャリアセンターが実施していたプログラムと効果的に融合させ、神戸学院大学の教育改革の一環として、計画的で実効性のある体系的なカリキュラム（キャリア体系図）を策定する。具体的には、1年次から4年次までの学年ごとに、各学部の特性に応じた学部別キャリア教育と、全学部共通の共通キャリア教育に大別し、カリキュラムを必修・選択等に区分した上で、マトリックス的に設定する。

さらに、第2ステップでは策定したキャリア体系図に基づき、学生が自主性を持ち、就業力に係る必要な資質能力を自覚し、問題意識を持って能力開発を行うことができるようになるため、キャリア・ポートフォリオのシステムを導入する。ここでは、受講したカリキュラム等の履歴保存と学生自らが目標設定し、成果についても自己チェックできるようにする。また、その達成度が不十分な場合は目標の再設定を行い再チャレンジする仕組みと、それらプロセスに教員が適切に関与し指導できる仕組みを取り入れ、PDCAサイクルを確実なものにする。

一方で、現状では実学的な教育が不十分と認識するなかで、職業人として求められる資質能力が形成されるようカリキュラムを設定する。具体的には、インターンシップを今以上に活発化させるため、受入企業数の増加、期間の長期化および担当する業務の質的向上等を図る。さらに実際の企業活動に即した内容である経営シミュレーションを取り入れるとともに、第一線で活躍する実務家を講師として招聘するなど、従来の座学中心の内容に加え、実践能力の向上を第1ステップの段階から行う。

最終の第3ステップでは、上記の内容が、有効に機能しているか否かを、主管するキャリアセンターが把握し必要な対応ができるよう、チェック体制（効果確認の仕組み）を構築する。内容的には、学生の自己チェック、受講生による授業評価、卒業生を対象とした卒業生就職満足度調査および就職先の企業を対象とした採用企業満足度調査などを、一定の指標を設け計画的に実施し、持続性ある取組を行う。

